

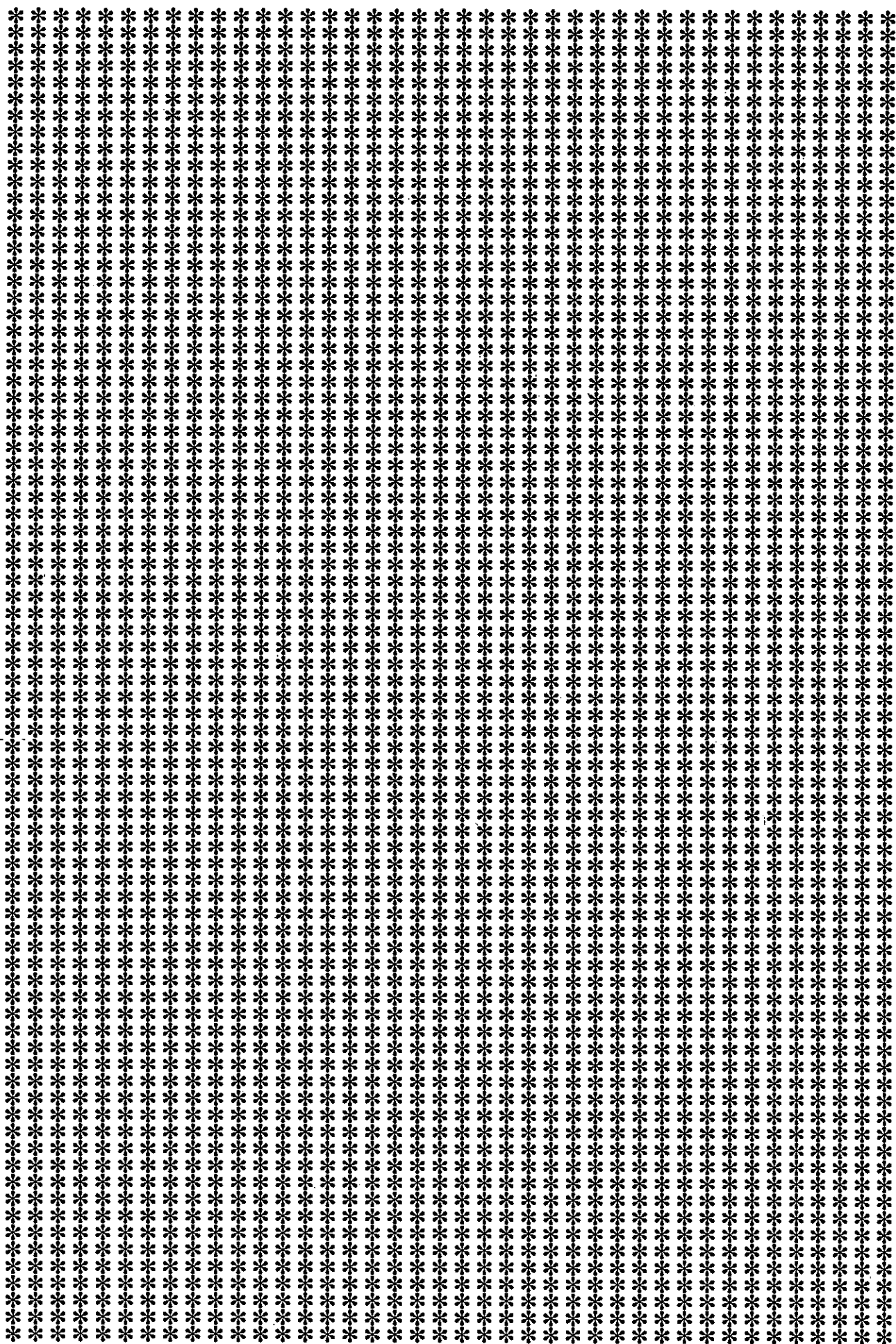
2025 年度
東京都立大学
大学院経営学研究科
経営学専攻博士前期（修士）課程
（経営学プログラム）
入学試験問題（2 月入試）

2025 年 2 月 11 日（火） 13:00 ～ 14:30

試験科目：経営戦略論・経営組織論・マーケティング・会計学・
データサイエンス・数学

注意事項

- ① 問題は、開始の合図があるまで、開かないこと。
- ② 答案用紙は二枚組になっています。二枚それぞれに、受験番号、氏名を書き、選択した科目名を明記すること。答案用紙が不足する場合は監督員に請求すること。
- ③ 数式・記号等以外は日本語で答案を作成すること。
- ④ 答案用紙はおもて面だけを使用すること。裏面は使わないこと。
- ⑤ 試験終了時には、問題・答案用紙・下書き用紙を机のうえに置き、監督者の指示があるまで着席していること。
- ⑥ 問題の印刷不明瞭、落丁・乱丁などに気が付いた場合には、ただちに監督者に知らせること。
- ⑦ 試験時間内は、トイレ・体調不良等の場合を除き、退室できません。
- ⑧ 問題、答案用紙、下書き用紙は、試験終了後回収します。
- ⑨ 下書き用紙の内容は、一切採点の対象になりません。
- ⑩ 試験科目には経営戦略論、経営組織論、マーケティング、会計学、データサイエンス、数学があります。このうち一科目だけを選択すること。
- ⑪ 電子機器（電卓も含む）は使用しないこと。



経営戦略論

以下の問題すべてに答えなさい。

- 1 製造業企業 A が、部品 X を外部の独立部品メーカーから調達するか、それとも社内で内製部門を持つかを選択する状況を考える。企業 A にとって、部品 X を外部から調達する方が望ましい場合について、「部品 X の汎用性」・「部品 X の生産費用」・「取引費用」という観点から説明しなさい。
- 2 以下の（１）と（２）に答えなさい。
 - （１）ネイルバフ（B. J. Nalebuff）とブランデンバーガー（A. M. Brandenburger）による補完的生産者（complementor）という概念について説明しなさい。
 - （２）「ある企業が特定の他社に対して競争相手でありながら同時に補完的生産者でもある」という状況を、具体例を挙げて説明しなさい。
- 3 「高い利益率を達成するには、市場シェアを拡大するべきである」という主張について、批判的に検討しなさい。

経営組織論

以下の問題すべてに答えなさい。

- 1 機能別組織の特徴と、そのメリットとデメリットを理由とともに説明しなさい。
- 2 事業部制組織の特徴と、そのメリットとデメリットを理由とともに説明しなさい。
- 3 マトリクス組織の特徴と、そのメリットとデメリットを理由とともに説明しなさい。

マーケティング

以下の問題すべてに答えなさい。

総合スーパーチェーン A 社ではある 1 店舗において野菜飲料カテゴリーの棚割計画について検討している。そこで、当該店舗での野菜飲料カテゴリーの購買履歴データ(1 年分のデータを商品ごとに集計)と野菜飲料カテゴリーの市場シェア(データサプライヤーから入手した同じ地域の同一期間の 1 年分のデータを商品ごとに集計)のデータを活用し、それぞれのデータを用いてクロス ABC 分析を実施し、小売業(自社)ランクと市場(競合)ランクを作成した結果を表 1 のように整理した。ABC 分析は一定期間の商品ごとの販売結果を降順に並べたリストをもとにして行う分析方法である。今回はあるカテゴリー(今回の例であれば野菜飲料カテゴリー)の売上点数を累計し上位 80%を A ランク商品、次の 15%を B ランク商品、残りの下位 5%を C ランク商品と分類している。

表 1. 小売業(自社)ランクと市場(競合)ランク

	小売業(自社)ランク				
		A ランク	B ランク	C ランク	取り扱いなし
市場 (競合) ランク	A ランク	①	②		③
	B ランク				
	C ランク (データなし)	⑤		④	

1 A 社が小売業(自社)ランクと市場(競合)ランクを用いて棚割計画を検討している理由について説明しなさい。

2 当該店舗の野菜飲料カテゴリーの棚割計画を検討する際に、表 1 の①～④の小売業(自社)ランクと市場(競合)ランクの組み合わせに該当する野菜飲料カテゴリーの商品についてどのような棚割計画の対応が考えられるか、以下の対応についてのキーワードを用いて、対応とそのような対応を考えた理由を説明しなさい。

キーワード：「導入候補」、「売り方検討」、「カット候補」、「スペース確保」

3 表 1 の⑤の小売業(自社)ランクと市場(競合)ランクの組み合わせに該当する商品はどのような特徴を有するか自分の考えを説明し、そのように考えた理由を説明しなさい。なお、小売業(自社)ランクが A で市場(競合)ランクが C(データなし)である商品というような回答は除くものとする。

会 計 学

以下の問題すべてに答えなさい。

1 税効果会計の目的について説明するとともに、税効果会計の適用対象となる差異ならびにその具体例について説明しなさい。

2 1の税効果会計の目的に照らして、税効果会計の方法上の区分である「繰延法」と「資産負債法」について説明しなさい。

3 子会社株式等の取得に伴い認識したのれんに係る繰延税金負債について、企業会計基準適用指針第28号税効果会計に係る会計基準の適用指針43項は、次のように定めている。

「子会社株式等の取得に伴い、資本連結手続上、認識したのれん又は負ののれんについて、繰延税金負債又は繰延税金資産を計上しない。」

この処理が正当化される理由について論じなさい。

4 連結会社相互間の取引によって生じた未実現利益の消去に係る一時差異について、企業会計基準適用指針第28号税効果会計に係る会計基準の適用指針34項は、次のように定めている。

「未実現利益の消去に係る連結財務諸表固有の将来減算一時差異については、売却元の連結会社において売却年度に納付した当該未実現利益に係る税金の額を繰延税金資産として計上する。」

この処理の妥当性について、IFRS (International Financial Reporting Standards: 国際財務報告基準) 上の取り扱いと対比して論じなさい。

5 以下の資料に基づき、当期末における税効果会計の仕訳を示しなさい。

[資料]

前期末および当期末における一時差異の残高は下記のとおりである。

	前期末	当期末
将来減算一時差異 (単位: 千円)		
棚卸資産評価損	9,000	12,000
貸倒引当金損金算入限度超過額	6,000	8,000
減価償却費損金算入限度超過額	16,000	18,000

(注1) 前期および当期の法定実効税率はともに40%であった。

(注2) 前期末および当期末において繰延税金資産は全額回収可能と判断された。

データサイエンス

以下の問題すべてに答えなさい。なお、解答においてグラフを描く場合は、論述に用いるために十分な概形がわかればよい。

- 1 あるカフェでは新しい商品としてケーキ A およびケーキ B を開発した。その販売に向け、それぞれのケーキに対する評価を行うために、20 名の客にケーキ A とケーキ B を無償提供したうえで、1, 2, 3, 4, 5 の 5 段階（1 を最低、5 を最高とする。）で満足度を回答するアンケートを実施した。右表がその回答データである。

ID	ケーキA	ケーキB
客01	4	3
客02	1	2
客03	2	3
客04	4	3
客05	5	3
客06	5	5
客07	2	2
客08	4	4
客09	2	3
客10	5	4
客11	1	2
客12	1	2
客13	1	2
客14	3	3
客15	1	1
客16	1	5
客17	5	4
客18	5	4
客19	5	3
客20	5	4

- (1) 満足度の平均値が A, B とともに 3.1 であったため、本カフェの店長は、A と B は同様に好まれるであろうと推測した。この推測が妥当であるかどうかについて、あなたの考えを根拠とともに記述しなさい。その際、必要に応じて右表のデータの適切な集計や、表・グラフによる可視化を行ってよい。
- (2) ケーキ A とケーキ B の満足度について右表のデータのみから読み取れることを挙げ（複数挙げてよい）、できるだけ詳しくその根拠を述べなさい。その際、(1) で作成した集計表やグラフ等があればこれを再度用いてもよく、さらに(1)で作成したものとは異なる集計表やグラフ等を作成してもよい。
- (3) 右表のデータのほかに、客の属性データとして、年代および性別のデータがある。このとき、これらの属性データと右表のデータをあわせて用いることで検証できる仮説を一つ考えて述べなさい。さらに、その仮説を検証するためには、それらのデータをどのように用いてどのような方法をとればよいのか、できるだけ詳しく述べなさい。

- 2 ある飲食店では、商品の販売数の予測を行うことによる仕入れ等の合理化を検討している。

この飲食店が都心のビジネス街にあるものとしたとき、この予測を行うためにはどのようなデータを収集すればよいのか、またそのデータを用いてどのような方法で予測すればよいのかについて、考えられることをできるだけ詳しく論じなさい。

数 学

以下の問題すべてに答えなさい。ただし、 e は自然対数の底とする。

- 1 次の行列の行列式を求めなさい。

$$(1) \begin{pmatrix} 0 & 34 & 40 \\ 1 & 1 & 1 \\ 34 & 40 & 34 \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 40 & 0 & 34 & -40 \\ 1 & 1 & 1 & -1 \\ 34 & 34 & 40 & -34 \\ -14 & 0 & 0 & 13 \end{pmatrix}$$

- 2 次の関数のマクローリン展開を3次の項まで求めなさい。

$$f(x) = (x - 1)e^x$$

- 3 確率変数 Y_1 と Y_2 は独立とし、それぞれの確率密度関数は

$$f(y) = \begin{cases} \frac{e^y}{3} & (y < 0) \\ \frac{1}{3} & (0 \leq y \leq 2) \\ 0 & (y > 2) \end{cases}$$

とする。

- (1) Y_1 の実現値が $\frac{9}{13}$ 以上1未満となる確率を求めなさい。
- (2) Y_1 の実現値が1以上となり Y_2 の実現値が-1未満となる確率を求めなさい。
- (3) Y_1 の期待値 $E(Y_1)$ を求めなさい。
- (4) $Y_3 = Y_1 + 2Y_2$ とする。 Y_3 の期待値 $E(Y_3)$ を求めなさい。
- (5) $Y_4 = \sqrt{e^{-(Y_1+Y_2)}}$ とする。 Y_4 の期待値 $E(Y_4)$ を求めなさい。

